

大林宣彦監督作品『ふたり』採録シナリオ(一)

尾道市立大学日本文学科柴研究室内 大林宣彦映画研究会

(柴市郎・野口智世・福圓岬・今吉勇貴・國本芙花)

【序および凡例】

本稿は、赤川次郎の小説『ふたり』(新潮社、一九八九・一)を原作として制作された大林宣彦監督による映画『ふたり』(松竹、一九九一・五公開)の採録シナリオである。大林が手がけた映画では、原作となる小説が存在する場合、両者はかなりの違いを呈することになりがちであるが、本作でもその事情に変わりはない。赤川小説の主軸は姉を事故で失った妹「実加」の成長物語であり、姉「千津子」は、実加の心の中にあつて至らない妹を励ましその成長を促す声としての存在である。しかし、大林によれば「原作通りの『ストーリー』展開というわけにはいかない¹⁾」。そこで大林映画は、小説にけるヒロイ

ン実加のなかの声(千津子)を実体化し、「『実加』の『生』の物語と、『お姉ちゃん』の『死』の物語とが、激しく『交錯』する²⁾」ストーリーを創りだすという「映画の工夫³⁾」によって誕生することとなったという。大林の『ふたり』のオリジナルシナリオ(桂千穂)は、『シナリオ』(シナリオ作家協会監修・一九九一年六月号)に掲載されているが、大林映画ではオリジナルシナリオとのあいだに細部も含め、多くの異同が確認される。こうしたことから本研究会では、これからの大林映画の研究の発展・深化のためには、原作小説と大林映画、オリジナルシナリオのみでは研究のための基礎データとしてじゅうぶ成に着手した所以である。

以下に、簡潔に本採録シナリオの凡例を記す。

①各シーンの場面表記、登場人物表記、台詞、ト書きの全てにわたり、桂千穂のオリジナルシナリオを参照しているが、映画と一致しないところも多数箇所存在するので、その場合、適宜映画に準じて修正・改変を施している。台詞の採録にあたっては、俳優の発音、録音状況によっては純粋に音声の聴取が困難なところもあるが、文脈や俳優の口の開き方などの要素を勘案し適切と判断される表記をおこなうよう留意した。オリジナルシナリオにはないがト書き部分には、実際の映像を彷彿とさせる補足情報として適宜ショットスケールを書き加えた。ただし、煩瑣になりすぎシナリオ通読の妨げとならぬよう、カメラワークについては余り言及しない方針を取った。

②各シーン冒頭の場面を記している行末には、目安として映画開始時からの経過時間を記している。また、各シーン内の縦罫線はカット割りを示す。これにより大林映画の複雑な編集行程の一端をうかがい知ることができよう。ただし、このカット割りの確認作業は目視によりおこなわれたものであり、それ以上の精度のものではないのであくま

で参考に供するものでしかない。

本稿は、日本文学科に在籍する学生を中心とする大林宣彦研究会（尾道市立大学日本文学科柴研究室内）における取り組みの経過報告としておこなった、二〇一五年度尾道市立大学日本文学会大会（二月五日）における研究報告「ふたつの『ふたり』―赤川次郎小説と大林宣彦映画の関係をめぐる基礎研究―」において参照したデータを基とし、これに改訂を加え成立したものである。なお本稿は本誌の紙幅上、これを次号以下に分割して掲載することとする。

注

(1) (3)

いずれも大林宣彦『4／9秒の言葉 4／9秒の暗闇＋5／9秒の映像』映画（創拓社、一九九六・六）一七七頁

《使用DVD『ふたり デラックス版』（パイオニアLDC、二〇〇二）》

『ぶたり』採録シナリオ (~ oh25m10s)

<p>坂道 [Oh2m19s] (オーブニング・シーケンスから続く)</p>	<p>(老婦人は実加に視線を向ける。)</p>
<p>老婦人 (坂の上から二人の少女(千津子、実加)が駆け下りてくる。画像はグレー。)</p>	<p>(ぶすつとした表情の実加。)</p>
<p>老婦人 (ランドセルを背負った千津子が実加の手を引いている。)</p>	<p>(老婦人、実加の方へ語りかける。)</p>
<p>老婦人 (坂の下からはゆっくりと帽子の老婦人が歩いて上っていく。)</p>	<p>(ぶすつとした表情のままの実加。)</p>
<p>老婦人 あら、千津子ちゃん。これから学校？</p>	<p>(老婦人のアップ。)</p>
<p>千津子 はい！</p>	<p>老婦人 いいわねえ、いつもお姉ちゃんと一緒に。</p>
<p>老婦人 (にこにこする老婦人。)</p>	<p>(実加は返事をしない。)</p>
<p>老婦人 そう。いいわねえ、千津子ちゃんは。</p>	<p>(実加の反応を待つ老婦人。)</p>
<p>老婦人 (笑顔のまま老婦人の話を聞く千津子。)</p>	<p>(並んで立つ千津子と実加。)</p>
<p>老婦人 明るくて元気で。</p>	<p>千津子 じゃあ、行ってきます！</p>
<p>老婦人 (老婦人のアップ。)</p>	<p>老婦人 はい、行ってらっしゃい。</p>
<p>千津子 実加が、また忘れ物しちゃったから。</p>	<p>(千津子は老婦人に礼をする。千津子と実加は坂を駆け下りていく。)</p>
<p>老婦人 (千津子は一度実加のほうを見て、また老婦人に目を戻す。)</p>	<p>(婦人は二人を見送って、またゆっくりと坂を上り始める。彩度変化。背景の家の庭木のみ部分的にカラー画像となる。)</p>
<p>老婦人 (頷く老婦人。)</p>	<p>(アイリスアウト。)</p>
<p>老婦人 そう。</p>	<p>北尾家・2F・実加の部屋(夕) [01:3m15s] (カラー画像。歌を口ずさみながら、棒を使って探し物をしている実加の足。)</p>

		<p>(棒でそこそこを手当り次第にひっかきまわす実加。)</p> <p>どこじやどこじやどこじや。物たちようどうして私が探し求めると姿を隠してしまうのじや。</p> <p>(実加、棒を椅子に立てかけて廊下へ出る。千津子の部屋へ入っていく。)</p>
	同・2F・千津子の部屋(夕) [014m9s]	<p>(実加、千津子の部屋に入ってくる。)</p> <p>実加 みーつつけた。借りてくねお姉ちゃん。</p> <p>(実加はテーブルの皿にある飴玉に気づき、がっさりとつかむ。)</p> <p>実加 ごちそうさまー。</p> <p>(さらに人形に向かって、)</p> <p>実加 ばーか。</p> <p>(人形が笑っている。)</p>
	同・2F・廊下(夕) [014m36s]	<p>(実加と雄一、同時に別の部屋から廊下に入ってきて扉を開める。)</p> <p>雄一 お前、また何を始めたんだ？ 千津子の部屋に入ったりして。</p> <p>実加 お父さんこそ。また出張？ 今度はどこ？</p> <p>雄一 神戸。四、五日で帰るよ。</p> <p>実加 ふーん。四、五日かあ。</p> <p>(階段を下りていく雄一と実加。)</p>
	北尾家・玄関(夕) [015m3s]	
		(玄関で靴を履こうとする雄一と実加。)

		<p>(ふたりの背後に治子が現れる。)</p> <p>治子 あなたまでお父さんと一緒にどこ行くの？</p> <p>雄一 ああ。</p> <p>実加 マコとテストの勉強。ほら、さつきそう言ったじゃない。</p> <p>治子 そうだったかしら？</p> <p>実加 言ったわ。ねえお父さんさつきご飯のとき、ねー。</p> <p>雄一 二、三日で帰るから。留守をしっかりな。</p> <p>治子 うん、私なら大丈夫。千津子も一緒ですから。</p> <p>(雄一、外の方向へ歩いていく。画面から外れる。)</p> <p>実加 (実加、治子の顔を見つめる。)</p> <p>治子 お母さん？</p> <p>実加 ン？</p> <p>治子 お弁当、ついでるよ。</p> <p>(実加、外の方向へ歩いていく。)</p>
	同・表(夕) [015m46s]	
		(実加、玄関から出てくる。)
		(雄一、実加が出てくるのを見ると歩き始め、郵便受けから新聞を抜き取る。)
		(雄一と実加、坂を下りていく。)
	同・D・K(夕) [016m3s]	
		(治子、D・Kに入ってくる。席につき、実加と雄一の食器を眺める。)
		本当に、あの二人とも。

<p>治子 千津子みたいに、 (流し台の上に茶碗と箸、湯吞みが並べてある。)</p>	<p>治子 ちゃーんと後片付けしてくれると、助かるのねえ……。 (治子、口元についていた米粒を取って食べる。)</p>	<p>途中の道 [016m38s] (細い坂道を一緒に下る雄一と実加。) (実加が電柱の裏を通り、雄一に笑いかける。) (雄一も微笑み返す。)</p>	<p>雄一 お前、グズのくせにそういうことは素早いんだな。 雄一 考えてみたら初めてじゃない？ お父さんとうやって二人だけで歩くの。 雄一 そうだったかな。 (雄一と実加が坂道を下りてくる。)</p>	<p>雄一 いつもこんな道通ってるのか？ 実加 あれからね。 (雄一と実加が階段を下りてくる。)</p>	<p>雄一 ほーう。こんな道があったのか。 実加 にやーん。 (階段の脇で、子猫たちが鳴き声をあげながら食べ物を食べている。)</p>
<p>実加 (実加、子猫に近寄ってしゃがむ。) 私猫だからね。いろんな抜け道知ってるよ。 (再びふたりで階段を下り始める。)</p>	<p>雄一 (雄一と実加、横に並んで歩いてくる。) 何でまた急に、ピアノのレッスンに行く気になったんだ？ あんなに嫌がってたのに。 生活を普通に戻さなきゃ。発表会だつて近いし。それにあれつきりでしょう、河本先生。お電話もしていないから心配なさってるわ、きつと。</p>	<p>雄一 (家々の間の階段を下りる雄一と実加のロングショット。) 雄一 ほーう。 実加 ん？ 雄一 お前もそんなふうに気がつくようになったのか。 実加 ふーん。そんなに駄目に見える？ 私。</p>	<p>雄一 (雄一と実加、階段を一番下まで下りて、線路沿いの道に出てる。) 雄一 おー？ こんなところへ出てくるのか。 実加 知らなかった？ お父さん。 この町は何年暮らしても、迷路みたいだ。 (歩道橋を歩く雄一と実加のロングショット。)</p>	<p>雄一 実加も、早く帰るんだよ。 実加 実加って呼んでくれたね。 雄一 何だそれは。</p>	

実加	お前、あんた、このこ、千津子ちゃんの妹。それがずーっと私。
雄一	うん。 (雄一、歩道橋の上で立ち止まり、実加と対面する。)
雄一	お父さんはね、お母さんになるべく独りにしたくないんだ。
実加	じゃあお父さんも早く帰って。
雄一	ああ。
実加	二、三日でよー？ (実加、雄一に飴玉を渡す。)
雄一	ああ。
実加	じゃあ、行ってらっしゃい。
雄一	うん。 (歩道橋の上で別れる雄一と実加のロングショット。)
小路 [0h8m46s]	(実加、小さな社のある小路を通っていく。) (ひとりの老婦人が社にお参りをしている。)
船着場 [0h8m56s]	(実加、小走りでフェリーに乗り込んでいく。) (牛乳を買っていた白スーツの男、実加を見ると慌てた様子で牛乳を受け取り、フェリーに乗り込む。)

フェリー [0h9m21s]	(フェリーは岸を離れる。) (海を眺める実加の後ろ姿。)
電車内 [0h9m48s]	(白スーツの男、実加を眺めながら牛乳の開栓に失敗し、顔に牛乳がはねかかる。ハンカチで顔や服を拭き、傍の椅子に腰かけず。)
船着場 [0h10m00s]	(雄一、新聞を読む途中で飴玉を口に入れてず。) (実加、船を降りて画面右側の通路を渡っていく。)
雑木林の小道 (夜) [0h10m22s]	(白スーツの男も、左側の通路から渡ってくる。実加の後について歩き、ゴミ箱に牛乳ビンを捨てる。) (実加、薄暗い小道を歩いてくる。) (後ろから白スーツの男が追ってくる。) (白スーツの男、のんびりと飴玉を舐めながら歩く実加のあとをつけていく。距離を詰めていき、実加の前に回り込む。) (実加、男に気付いて目を上げる。) (実加の前に立ちはだかる男。) (茫然と男を見つめる実加。)

	(何かをしやべろうと、口をも「も」させ る男。)
男	(男を見つめる実加。)
	おっ……。
男	(挙動不審な男。)
	おいしそう……ね。
男	(男の顔の動きを目で追う実加。)
	(たどたどしく話す男。)
男	ボクも……な……舐めたいなあ……。
	(うつむいている実加。近寄る男に飴玉を ひとつ差し出す。)
	(男、実加の手を包みこみつつ飴玉を受け 取る。)
	(男、飴玉の包を開いて口に入れる。)
	(飴玉を頬張る男を眺める実加。)
	(実加、男から視線をそらす。男、さらに 実加に近寄る。)
男	甘いね。
	(実加、財布を男に差し出す。)
	(男、受け取って中身を確認する。)
	(男が財布の中身を出している間、うつむ いている実加。)
	(辺りで犬たちがわめく声がする。)
	(男、お金を財布に戻す。)
男	お金は……いないよ！
	(男、実加に財布を差し出す。)

実加	(実加、おずおずと財布を受け取る。)
	それじゃあ。
	(実加、男の横を通ろうとする。)
	(男、実加の足に自分の足を引っかける。)
男	(転倒した実加を、男が抱きとめる。)
男	あ、大丈夫かい？ ちゃんと……歩けるかい？
実加	やめてください——放してよ……。
男	ねえ、大丈夫だよ、ねえ、大丈夫！
	(男は実加の肩を抱え込もうとし、実加は 「やめて」と叫びながら抵抗する。)
	(もがく実加と、実加を抑え込もうとする 男のロングショット。)
実加	放してえ！
	(男、小道から実加を斜面の林の奥へ引き ずりこんでいく。)
	(男、実加を土の上に投げ倒す。)
	(男のアップ。息が荒い。)
	(楽譜を手に、男を見る実加のアップ。)
男	(男、実加のもとにしゃがみ込む。)
	ボク、キミのこと知ってるよ。町で、
男	(目を見張る実加のアップ。)
	ときどき見かけるからね。
男	(男、実加の手首をつかみ、馬乗りになる。)
	好きなんだよ。
	(実加の顔のアップ。)
男	好きなんだ。好きなんだよ！

	(男、実加に顔を近付けようとする。)
	(実加、楽譜で男の顔を押し戻す。)
	(楽譜で顔を押しされる男のアップ。)
	(男、いったん実加から顔を離す。)
男	好きだよ……好きだよ……。
	(男、実加の膝をさわる。実加はビクッと膝を伸ばす。)
	(怒りの表情を浮かべる男のアップ。)
	(男に頬を叩かれる実加のアップ。)
	(楽譜が宙に飛ぶ。)
	(興奮した様子の男。)
	(首を横に向けた実加と、男の手。)
	(男、震える両手を実加に伸ばす。)
	(男、馬乗りになって実加の首を絞め始める。)
	(実加、首にかかる男の手首を外そうとする。)
	(実加の首を絞め続ける男。)
	(男に首を絞められる実加のアップ。)
	(男の後ろ姿と、もがく実加の足。)
	(近くの木の幹の上に、ロングスカートの人物〔千津子〕の足元。)
	(実加、力なく千津子の方に首を向ける。)
	(木の幹から宙に跳ぶ千津子の足。)
	(実加の顔のアップ。)
	(宙に跳ぶ千津子の足。)

	(実加の顔のアップ。)
	(宙に跳ぶ千津子の足。)
	(実加の顔のアップ。)
	(着地する千津子の足。)
	(実加の顔のアップ。)
	(千津子の手が石を指さす。)
	(石に手を伸ばす実加のアップ。)
	(千津子の手と、石に伸びた実加の手。)
	(実加の手が石に届くと、千津子の手は離れていき、画面の外に出る。)
	(実加、苦しそうな表情をしながら、石を構える。)
	(実加の首を絞め続ける男と、男の頭を狙って石を構える実加の腕。)
	(男、実加の石で頭に打撃を受ける。)
	(男、うめき声をあげて気絶し、力を失って倒れる。)
	(実加、倒れた男の身体を脇に押しつけて立ち上がる。)
	(立ち上がった実加。男を見下ろし、その場を立ち去る。)
	(男のジャケットのポケットから『車輪の下』の文庫本がのぞいている。)
	(雨が降り始め、楽譜〔シューマン・ノベレットン〕の上に注ぐ。)
	(よろよろと斜面を下りる実加。)

(暗い道を歩いてくる実加。河本ピアノ教室への階段を上っていく。)

(ピアノを演奏する音が聞こえている。)

ピアノの先生の家・表(夜) [0h14m41s]

(実加、河本ピアノ教室の前にとどりつく。)

(門から竜一郎、竜一郎の祖父、ピアノの先生が互いに挨拶をしながら出てくる。)

ピアノの先生 北尾さん! どうしたの?

(実加、ピアノの先生に抱きとめられる。)

ピアノの先生 何があったの?

実加 お、お姉ちゃん……姉が……。

ピアノの先生 千津子さんが?

実加 お姉ちゃん……。

竜一郎 誰もいやしないよ。

竜一郎の祖父 のう。

長谷部家・台所 [0h15m15s]

(客に出す食事を作る真子の両親と従業員たち。)

真子の父 お前ハチマキだらしないぞ。

従業員 はい、すいません。

真子の父 マコどうした。まだ学校行かないのか。

真子 だってまだ来ないんだもん。

真子の母 どうしたのかしら。北尾さんこの頃ずいぶん元気そうに見えるけど。ねえ、待ち合わせもいけど、あんたまで遅れると困るわよ?

(真子、受話器を取ってダイヤルを回す。)

真子 実加グズだから!

真子の父 いいよいいよ。学問より友情だ。

(実加、小声で「おはようございます」とあいさつをしながら入ってくる。)

真子の母 あ、北尾さん……。

(実加、「しーっ」と人差し指を立てて真子の母を止め、こっそりと真子に近付いていく。)

真子 あ、もしもし、長谷部ですけど。実加は、あ、それならいいんですけど……。

(実加、真子の肩をいきなりつかむ。)

実加 わっ!
(真子、驚いて受話器を落とす。)

(実加、受話器を取る。)

実加 もしもしお母さん? うん、大丈夫。じゃあね。

(実加、受話器を置く。)

実加 ごめん。びっくりした?

真子 もおー!

(実加と真子、従業員や真子の両親とあいさつを交わして部屋を出ていく。)

(玄関に立つ実加と真子。)

真子 母ちゃん行ってきまーす!

(部屋から玄関の近くへ出てきた真子の母。)

真子の母 行ってらっしゃい!

真子	行ってきましたー！
北尾家・リビング [0h16m20s]	(受話器を持って立ちすくむ治子。やがて受話器を置く。)
長谷部家・表 [0h16m25s]	(雨が降っている。傘を差し、長谷部家の門を出てくる実加と真子。)
実加	自転車出してといてくれたんだ？
真子	うん、時間あったからねー。
実加	ごめんねー、これから私が遅れたとき先行って。
真子	何言ってるの。
実加	私、勝手に出させてもらうから。
真子	水臭いぞ親友よ！ ほら、急ごう！
実加	うん！
	(実加と真子、片手で傘をさして自転車をこぎ出す。)
	(自転車をこぐ実加と真子。)
	(玄関で真子の母が待っている。)
真子	行ってきましたー！
実加	行ってきましたー！
真子の母	行ってらっしゃい！
尾道女子中学校・正門表 [0h16m40s]	(自転車と並走する実加と真子。)
実加	だからやつつけてやったんだってば、そのへんタイをさ！

真子	いい加減にしてよ、実加みたいなグズにできるわけないでしょ？
実加	だっておまわりさんだって褒めてくれたもん！
真子	もう！
	(実加と真子、正門に到着し自転車を下りる。)
同・校内・屋外 [0h17m6s]	(校内を歩く実加と真子。実加は真子の後ろから話しかける。)
実加	ねえねえこれだけ言ってもまだ信用できないの？
真子	うん。
実加	あー、わかった。マコ私がおかしくなったと思ってんでしょ。
真子	ええ？
	(実加、傘を閉じ教室へ歩いていく。真子も傘を閉じてその後を追う。)
実加	ムリないか。この秋からショックなことばっかり起こったもんね私んち。
真子	そんなこと思っていないってば！ ほんとだよ！
同・教室 [0h17m30s]	(真子をのぞきこむ実加のアップ。)
実加	目の前がぼーっと霞んでたけどね、わかるんだ。お姉ちゃんよ。
	(ぶつぶつと話し続ける実加の隣の席で、真子が弁当を食べている。)

	(前の席の女子生徒たちが小声で話し始める。)
	(「前はあんなに喋んなかったのにねえ。」)
	(「大丈夫かなあ、期末テスト。」)
	(「ショック療法よねえ。」)
万里子	大丈夫よ、北尾さんは。頭がいいんだから。
実加	(万里子の方を振り向く実加。)
	え？
万里子	(首を後ろに向ける実加の視線の先で、話を続ける万里子。)
万里子	何しろわが尾道女子中学校、八十年の歴史の中の
万里子	(万里子を見つめる実加。)
万里子	伝説的な秀才、北尾千津子の妹
万里子	(話し続ける万里子。)
万里子	ですものね。
実加	(実加、前に向き直る。)
実加	そんなあ……。
万里子	(万里子のアップ。)
万里子	ただ、北尾さんは時々、夢見る人になっちゃうんだわ。
万里子	(実加の横で、万里子の言葉を聞いた真子が笑い出す。)
真子	いえてる。
真子	(教室中の生徒が笑い出す。)

	(笑い声の中で、ぶすっとした表情をする実加。)
北尾家・表(夜)	[0h18m14s]
	(雄一、坂道を歩いて上ってくる。ポストに入っていた新聞を取る。)
北尾家・玄関(夜)	[0h18m29s]
	(雄一、玄関の扉を開けて入ってくる。)
治子	おかえんなさい。
	(すでに玄関で待っていた治子。)
雄一	(治子の方を見つめる雄一。)
雄一	驚いたなあ。足音でも聞こえたのか？
治子	(向かい合う治子と雄一。)
治子	もう待ちくたびれました。
雄一	三日目だよ、まだ。二、三日って言っただろ？
治子	二、三日と言いますとね、二日目を待ちますわ。
	(実加の歌声が聞こえてくる。)
雄一	あ。歌ってるなあ。
治子	久しぶりでしょ？ 千津子の歌。
	治子、ダイニングキッチンへ。
	雄一、見送った後、階段を上る。
同・浴室(夜)	[0h19m10s]
	(実加が浴槽の中で歌っていると、途中から千津子が一緒に歌いはじめる。)
千津子	茹であがらない？ 相変わらず長風呂なんだから。

実加	お姉ちゃん……。
千津子	(浴槽に腰かける千津子と、千津子の方を向く実加の背。) あんたも結構女らしい身体つきになってきたね。
実加	(浴槽の中から千津子を見上げる実加と、実加の方に首を向ける千津子。) エッチ！ (実加、湯の中に頭まで沈める。)
千津子	ケチ。
実加	(浴槽の側面からのアングルで、向かい合う実加と千津子。) お姉ちゃん、ずっと傍にいてくれたんだ……。
千津子	うん……。
実加	もしか、あいつに襲われなかったらずっと黙ってた？
千津子	そうね。たぶん。
実加	じゃあよかった、襲われて。
千津子	バカ。
実加	お姉ちゃん？
千津子	ん？
実加	ありがと。
千津子	ドジな妹をほっとくわけにはいかんでしょが。
実加	どうしていいかわかんないことばっかり。

千津子	……ごめんね実加。あんたをひとりぼっちにして。
北尾家・D・K (夜) [0h20m34s]	(千津子は水を掬おうとするが、すりぬけてしまう。)
治子	(意気揚々と話す治子のアップ。)
治子	おまわりさんったらねえ、大変勇敢なお嬢さんですな、犯人をガンと一撃しましてね、
治子	(食べ物を咀嚼する雄一。)
治子	現場付近をふらついているところを逮捕したんですけれども、
治子	(治子のアップ。)
治子	それまでも何件もやっているようですから追求します、ですって。
雄一	(雄一のアップ。)
雄一	そうか。
雄一	(得意気な表情をする治子のアップ。)
雄一	(雄一のアップ。)
雄一	実加のそんな武勇伝があったのか。
雄一	(うなづく治子のアップ。)
雄一	(茶碗の飯をかきこむ雄一のアップ。)
治子	(食卓についている治子と雄一。)
雄一	本当に心配ばかりさせて……。私に嘘ついて、河本先生のところへ行く途中だったんですよ。しかし、よかった……。無事でよかったです……。
雄一	(治子、小さくうなづく。)

	(風呂上りの実加がシャツを着ただけの姿で部屋に入ってくる。)
	(茶を飲もうとする治子のアップ。実加に気付き、顔を上げる。)
治子	なんです、 (食卓についている雄一と治子、その間に立つ実加。)
実加	お父さん。 (実加の方を向く雄一のアップ。)
治子	その格好！ 実加。
雄一	(雄一と治子、実加。)
実加	お帰んなさい。早かったのね。 (実加、お土産の箱を手取る。)
雄一	うん。 (雄一と治子、実加。)
実加	神戸肉。ふーん。 何？ 人のことジロジロ見て。 襲われるような年頃になったんだな、お前も。 変なお父さん！
治子	長谷部さんから電話ありましたよ、電話くださいって。
実加	あ、そう。はい。 (実加、受話器をとり、自室に上がろうとする。)

雄一	おい。 (のれんを手で除ける雄一。)
雄一	(ひよっこりと戸の奥から半身を出す実加。)
雄一	(のれんを除けている雄一。)
雄一	下でかけなさい。 (実加、にこりと笑う。)
実加	親に秘密のある年頃になったのよ！ (実加、戸の奥へ去っていく。)
治子	(動かず実加を見送る雄一。)
治子	(治子、身を乗り出し戸の向こうに声をかける。)
治子	風邪引きますよ！
長谷部家・玄関 [0h21m54s]	(客を見送る真子の母。)
真子の母	どうもありがとうございます。
客	ご馳走になりました。 (玄関の近くにある電話機を使って、実加と話している真子。)
真子	もしもし、実加？ ねえ、自信ある？ 明日の図形。
北尾家・実加の部屋 [0h22m35s]	(部屋に入ってくる実加。)
実加	マコのようにはいかないけどね。私の数学苦手なの知ってるでしょうが。

長谷部家・玄関 [0h22m11s]	(電話ボックスの中の真子。)
真子	がんばって。 でさあ、テスト終わったら今年も行く？
北尾家・実加の部屋 [0h22m16s]	(ベッドの上で足を崩して座っている実加。)
実加	行くって……どう？
真子	(受話器から) どうって、《第九》。 (ラジカセから、千津子の歌声。)
実加	《第九》かあ……。
千津子	(ベッドの上で寝転がる実加の後ろ姿。)
千津子	行って！ (実加、上体を起こして千津子の方へ振り向く。)
実加	お姉ちゃん。 (微笑む千津子のアップ。)
長谷部家・玄関 [0h22m40s]	(真子のアップ。)
真子	何？ (真子が電話ボックスの外にいる父に、首で「あっちに行け」と合図をする。)
	(電話ボックスの外から、真子の父が真子に手を振り、投げキッスをする。)
	(苦笑いする真子。)

真子	あ……やつぱり、やめとく？
北尾家・実加の部屋 [0h22m51s]	(腰掛けて、実加の方を見ている千津子。)
千津子	行こうよ、実加。いつも通り一緒に聴こうよ、《第九》。 (実加、ベッドの上に座ったまま千津子の言葉を聞いている。)
長谷部家・玄関 [0h22m57s]	(電話ボックスの扉のガラス越しに、真子のアップ。)
真子	実加く、聞いてる？
北尾家・実加の部屋 [0h22m59s]	(実加のアップ。)
実加	そうしたい？ (千津子、無言で微笑む。)
長谷部家・玄関 [0h23m5s]	(電話ボックスの脇の壁に背をもたれる真子。)
真子	そうしたいって、じゃあ行くのね？
北尾家・実加の部屋 [0h23m8s]	(実加のアップ。)
実加	うん。行く。
長谷部家・玄関 [0h23m11s]	(ガラス越しの真子。)
真子	そう。じゃあ一緒に頼んどく。

北尾家・実加の部屋 [0h23m13s]	(実加と千津子。)
実加	(実加、千津子の方へ振り向く。)
うん、二人ね。	
長谷部家・玄関 [0h23m15s]	
真子	(ガラス越しの真子。驚いた表情になる。)
二人？	
北尾家・実加の部屋 [0h23m17s]	
実加	(実加と千津子。)
ううん、マコと二人。	
長谷部家・玄関 [0h23m19s]	
真子	(ガラス越しの真子。)
お姉ちゃん？	
北尾家・実加の部屋 [0h23m20s]	
実加	(実加のアップ。)
え？	
長谷部家・玄関 [0h23m22s]	
真子	(ガラス越しの真子。)
その歌。	
北尾家・実加の部屋 [0h23m24s]	
	(ラジカセの中で、カセットテープが回っ てくる。)
実加	(実加のアップ。)
そう！	

長谷部家・玄関 [0h23m31s]	(ガラス越しの真子。)
真子	そう。じゃあ一緒に、頼んどべ。
北尾家・実加の部屋 [0h23m35s]	
実加	(実加のアップ。)
うん！ バイバイ！	
長谷部家・玄関 [0h23m37s]	
真子	(ガラス越しの真子。)
バイバイ。	
真子	(真子、受話器を置く。)
北尾家・キッチン [0h23m42s]	
	(治子がテーブルについて本を読ん でる。)
治子	(実加が弾くピアノの音が聞こえている。)
	あの子ったら、また千津子の部屋に入って……。
	本当に、わがままで、意地っ張りで、甘えん坊
	で……私にそっくり。
	(治子、読書に集中できず、本を置く。)
	(テーブルに置かれた本。治子の指が苛立 たしげにトントんと本を叩いている。本の タイトルは「聖家族」。)
北尾家・2F・千津子の部屋 (夕) [0h24m13s]	
	(人形が、笑いながら手足を動かしている。)
	(実加がピアノを弾き、側で千津子がそれ を眺めている。)

実加 ああ、ダメだダメだ。私にはやっぱ才能ないよ、

お姉ちゃんとは違うんだから。

千津子 バカ。風邪引くわよほんとに。早くお洋服着な

さいよ？ また痴漢に襲われるわよ。

実加 だったらその制服貸してよ。憧れなんだから。

千津子 ダメよ。《第九》に行くときは、あの黒で決めるの。

まったく、勝手に決めないでよね。

実加

(実加、鏡の前で黒いワンピースを身体にあわせる。)

うんとレディのようにしてんのよ。

千津子 お姉ちゃん。

実加

ん？

実加 もう体験済みだった？

千津子 ばーか。

(実加はワンピースを持ちながら《第九》を歌う。)

―しば・いちろう 日本文学科教授―

―のぐち・ともよ 日本文学科四年生―

―ふくえん・みさき 日本文学科四年生―

―いまよし・ゆうき 日本文学科三年生―

―くにもと・ふうか 日本文学科三年生―

〔以下続稿〕